

第2章

この計画で私たちが目指すもの

1 私たちが大事にする理念

少子高齢・人口減少によりかつてない超高齢社会を迎える中、高齢になっても住み慣れた地域で自分らしくいきいきと暮らしていけるよう、地域みんなの助け合い、支え合いが一層重要となってきています。

本市では、平成22(2010)年に第1次計画を策定し、地域福祉の推進に取り組んできましたが、近年の社会構造の変化から、福祉ニーズも多様化し、従来の行政サービスだけではすべての問題に対応しきれない状況になっています。

こうした中、身近な地域で住民同士が支え合い交流を深め、まごころと思いやりの心を持ち、一人ひとりが地域の課題を我が事として受け止め、地域ぐるみで課題を解決していくことが求められています。悩みを誰にも相談できず孤立する人をなくすよう、誰もが自分の出来る範囲で支え手となり、地域のつながりや絆を大事にしていくことが必要です。

また、平成30(2018)年度から令和9(2027)年度までを計画期間とする「深谷市総合計画」の基本構想においては、「元気と笑顔の生産地 ふかや」を将来都市像と定めています。この計画では、基本構想が描く将来都市像を念頭に、誰もが住み慣れた地域で生きがいを持って暮らし、共に支え合う社会を築いていくことを目指しています。

今後、さらに地域福祉を進めていくために、地域で暮らす誰もが自分の暮らす地域について関心を持つこと、そして地域づくりに参加し、みんなで共生社会を創っていくことが重要であるという考え方に立ち、次のとおり基本理念を定めます。

基本理念

みんなで創る 地域共生社会
～まごころと思いやりのふかや～

忠恕のこころ

*地域共生社会とは、人々が様々な生活課題を抱えながらも住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、互いに支え合いながら、地域を共に創っていくことのできる社会です。



2 私たちが目指す目標

目標1 ふれあい、交流が盛んな地域をつくる

誰もが暮らしやすい地域をつくるためには、普段からあいさつや声かけ等により、地域の中で人と人がつながりを持つことが大切です。日常的に、地域みんなが交流できる場の充実や、社会参加しやすい環境づくりを推進し、いつまでも健康でいきいきと暮らすことができる、ふれあい、交流が盛んな地域づくりを目指します。



目標2 地域の中で支え合うしくみをつくる

住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、住民同士の助け合いが重要です。そのために、一人暮らし高齢者の見守りや、子どもの登下校の見守り等、地域の中で見守るしくみづくりを支援し、さらに地域ぐるみでの防災活動や、防犯活動体制を推進します。また、ボランティア等の人材育成や、市民活動団体への支援を行い、地域の中で支え合うしくみづくりを目指します。



目標3 丸ごと課題を受け止める体制をつくる

地域住民がお互いの抱える生活上の課題を「我が事」として捉え、地域の力で解決できるような地域力の強化がこれからは重要となります。そのために、地域の中で課題を解決できる体制づくりを支援し、地域福祉活動の中心的な役割を果たす社会福祉協議会の活性化を図るとともに、関係機関の連携により、地域の力だけでは解決できない課題を「丸ごと」受け止める包括的な支援体制づくりを目指します。



3 計画の体系

